

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	株式会社総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり		
所在地	多治見市市之倉町13丁目83番地の353		
自己評価作成日	令和8年2月1日	評価結果市町村受理日	令和8年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191100052-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和8年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、御家族様、スタッフが極力近い距離で居られるよう、御家族様との連携を密にし、家庭的な温もりのある雰囲気作りを大切にしている。長く勤めている介護職員も多く、入居者様の小さな変化に気付く力がありチームワークも強い。また看取り介護にも対応しており、その人らしく最期を迎えられるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、当事業所の他にも、デイサービスや小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所を併設しており、地域住民の安心に繋がる総合福祉施設である。職員として看護師を配置しており、利用者の急変時には迅速に対応し、医療機関との連携に努めている。毎月、担当職員を決めて、レクリエーションや作品作りを行い、利用者が満足感や達成感を得られるよう工夫している。また、隣の幼稚園から聴こえてくる音楽に合わせ、広い廊下で歩行訓練をする人もあり、その姿を温かく見守る職員の存在が、利用者のやる気と心の安定に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を「住民の方々と共に」を先頭に付けた理念に変えた。職員会議で確認し職員は日常の支援の中でお互い理念に叶った支援をしているかどうかを指摘している。	今までの理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域を巻き込む文言を付け加えている。住民にとって、事業所が身近な存在となれるよう取り組んでいる。理念の実践状況について振り返り、やりがいと誇りを持って日々の支援にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	インフルエンザの流行が収まったら公民館のイベント(歌、体操等)に参加する予定。ハロウィンやクリスマス会の行事で幼稚園児と交流している。散歩の折、利用者様と町内の方々とお話をしている。	地域行事も復活してきており、積極的に参加していくとしている。3月の公民館でのイベントに、参加申し込み済みである。隣の幼稚園児たちが、季節の行事で事業所に訪れてくれる事も多く、利用者も笑顔で迎え、一緒に楽しい時間を過ごしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や人員状況、事故等を報告し要望等をきいている。頂いたご意見をサービス向上に生かす努力をしている。地域での問題についても話題に上がることもあり問題解決に繋がる事もある。参加者の協力が強く意見交換が活発に出来ている。	運営推進会議には、高齢福祉課や地域包括支援センター、民生委員、地域代表の参加を得て開催し意見交換を行なっている。利用者を笑顔に出来るよう、レクリエーション活動やイベントに力を入れており、職員が工夫をしながら実施し、その様子についても報告している。	参加者も多く、活発な意見交換を行なっている。今後も運営推進会議を活かして、利用者サービスの向上に繋げるために、一方的な報告で終わることなく、意見交換の内容も記録し、会議内容を振り返ることが出来る議事録作りに期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多治見市とは運営推進会議へ参加していただいたり、困った事や事故報告に関して積極的に相談して、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は災害時における福祉避難所として、市と協定を結んでいる。市の担当者には運営推進会議への参加を得ており、困難事例についても、その都度、相談しながら協力関係を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束と虐待の研修を管理者が受講しその内容を会議の時に勉強会として学び全職員で共有している。	同法人事業所合同で、定期的に委員会を開催し、研修は年2回実施している。管理者が外部研修を受けた際の資料を活用し、全職員で共有している。議事録を職員に回覧、委員会の内容を周知し、利用者の思いに寄り添いながら、拘束をしないケアに努めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置しているので、回覧等で虐待防止を徹底したり、どのような行動、言動が虐待に相当するのかを会議の中で職員に説明して虐待に対する意識を高めている。	年2回、虐待防止委員会を身体拘束等の適正化委員会と同時開催している。事例を挙げて学び、不適切ケアに繋がらないよう、声のかけ方について話し合っている。拘束を含めて、スピーチロックが虐待に繋がる事もある事を認識し、「言い換え言葉」を学んでいる。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者ケアマネが研修会に参加して活用に備えている。以前日常生活自立支援事業を利用していた入居者様がいて社会福祉協議会、市の高齢福祉課と連携し支援した経験もある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し起こりうるリスク、重度化についての対応等について詳しく説明をしている。不安な事が無いかなど、具体的にこちらから尋ねて納得していただいている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、御家族様の意見は、面会時や御来所の際に何でも気軽にスタッフに話せるようにしている。また電話やメールの際にこちらから意見を引き出せるようにしている。ご意見箱も設置している。	毎月送付する写真付きの個別便りには、家族に向けての手書きメッセージを添えている。また、家族の依頼により、居室にポータブルトイレを設置するなど、その都度、ニーズを把握し、安心して過ごせるよう対応している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞くようにしている。その内容を施設会議、又直接社長、施設長に職員の意見を伝えている。	管理者や看護師が日々現場に入っており、職員の意見や提案を受け止め、速やかに対応している。勤務時間やシフト調整等、職員の意見や要望を聞きながら、改善につなげている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理者、管理者代理が現場の中で個々の勤務状況を把握して社長、施設長に伝えている。	有給休暇の取得については、人手不足もあり申請を躊躇するとの職員の声がある。急な欠勤には管理者や看護師が対応している。休憩は、事務所で取ることも出来るが、利用者の排泄支援等もあり、様子を見ながらの休憩となっている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、管理者代理はスタッフの資格や経験、介護技術の力量を把握し、介護技術の問題をテーマにして研修を行っている。また新入社員が聞きやすい雰囲気作りに努めている。理学療法士やマッサージ師入っていたので意見を聞いていた。	管理者は、職員の資格や経験、介護技術の力量を把握している。社内研修で職員が講師となるケースもある。介護福祉士の資格を持つ職員は、日々、利用者ケアを行いながら後輩の指導も行っており、更なる意欲向上とスキルアップに取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネが多治見市が開催するサービス事業者との交流会に参加して、他事業者との交流を続けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの入居者様が何が出来るかを把握し毎日の生活の中で出来る事をお手伝いして頂き、入居者様同士がお手伝いをしながらお互いにコミュニケーションを図れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御自身の暮らしの中で希望や要望を言える方が増えてきているが、御本人様の希望がなかなか言えない方は、職員の毎日の関わりの中から声掛けをしながら把握に努めている。	現在は、介護度の低い利用者が多く、思いや意向を聞き取ることが出来ている。意思疎通の困難な人は、家族からの情報や日々の関わりの中での気づいた事を申し送りノートや介護記録に記録、共有しながら本人本位の支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御自分の想いを伝えられない入居者様は、日々介護にあたっている職員と御家族様とで意見交換、計画見直しを図り、現状に合った介護計画を作成している。	担当職員を中心に、細かな観察と記録を心がけ、利用者の小さな変化を見逃さないようにしている。緊急時には、職員の気づきを主治医に伝え、家族と相談しながら、介護計画の見直しに繋げている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の少しの変化や気付きは毎日の介護記録に残し、申し送りノートに細かく記載して職員全員で情報共有している。また介護計画の見直しにも活かしている。	職員は常に介護計画を意識し、計画に沿って記録を残している。職員間での情報共有を基本とし、適切なケアに努めている。管理者は全利用者の計画作成を担当しており、特別変化がない限り、計画の見直しは1年に1回としている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様の状況に応じて支援している。お一人お一人のニーズに可能な限り答えられるよう、柔軟な対応をしている。	福祉用具の貸し出しは行なっていないが、必要となった場合は業者を紹介し、利用できるよう支援している。受診や買い物など家族対応ができない時は、職員が柔軟に支援している。また、介護保険の更新など行政手続きも代行している。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の理美容の提供を行っている。今後公民館等の催し物に積極的に参加していく。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様の希望を聞き安心適切に医療が受けられるように支援。現在全員訪問診療対応、内科以外は基本御家族様対応だが、御家族様の都合が悪い場合のみ看護師対応にて付き添い受診、結果等その都度御家族様に報告している。	入居時の丁寧な説明により、現在、全利用者が協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。他科への受診は医療機関に情報提供を行なっている。受診の際に家族が対応できない場合は看護師が有料にて同行し、受診結果を家族と共有している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報を提供し、時々面会、状態を把握、御家族様とも連携、退院後に安心して暮らせるようにしている。また病院の相談員とも情報交換し主治医に直接聞く事も出来る。退院時にはカンファレンスに参加して安心して生活できるよう支援している。	入院時は、サマリーを医療機関に提供し家族とも連携しながら情報を共有している。退院カンファレンスには管理者または看護師が参加している。退院後は、病院のリハビリ提供書に基づいて、看護師や職員ができる範囲で支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明をしているが終末期のケアについては御本人様、御家族様の想いに沿える24時間体制の医療連携を整え、重度化指針の作成をしている。	契約時に重度化の対応について説明し、同意を得ている。終末期については、医療連携を整え本人、家族の安心と意向に沿って、支援している。利用者の状態が変化した場合は、家族は24時間面会可能とし、宿泊にも対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実施している。今後も定期的に訓練、研修を行う予定。事務所内にマニュアルが提示してあり職員が何時でも目を通せるようにしてある。また事前に起こり得るリスクも入居時に説明し同意を得ている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回入居者様と共に消防署の協力で訓練を行っている。町内会に入会し地域の活動に参加する機会も増えているので地域の人と一緒に訓練し協力体制を築くようにしていきたい。	地域の防災訓練に参加を予定していたが、雨で中止となり、参加できなかった。事業所の災害訓練は消防署の指導の下、年2回利用者と共にやっている。備蓄品を完備し、近隣在住の職員が多い事から、事業所としても心強いと思われる。	2階は車椅子利用者が多く、避難誘導について検討中である。早期に消防署に相談し、具体的な対策や避難方法の確立に期待したい。また、地域の防災訓練参加についても、継続されたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様とのプライバシーを損なわない対応を心掛けている。職員会議の際に職員の意識向上を図っている。人格を否定するような対応をした職員には現場で管理者、看護師、リーダーが注意するようにしている。	排泄や入浴支援は、同性介助の希望に対応している。日頃のケアの中で、不適切ケアや発言が見られた時は、現場で注意している。また、職員会議の際に、利用者への言葉遣いや対応について、研修資料を用いながら、意識改革に取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が些細な事でも選択できるような場面を提供するよう心掛けている。言葉で意思を表せない入居者様には表情やふとした行動から汲み取って対応している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるが、その人その時のペースや気分、体調に応じて極力その方に合った柔軟な対応を可能な限りしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは入居者様に手伝ってもらっている。またクリスマス会やお誕生日会、おせち料理等バイキング形式にしたり、おやつ等を職員と利用者様で手作りして、大変喜ばれている。	主食と汁物は職員が手作りし、副食は湯煎食で提供している。また、利用者の口腔状態や嚥下機能に合わせた形態で提供している。誕生日会やおせち料理、バイキング形式での提供等で利用者の楽しみに繋げている。おやつ作りも一緒に行なっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と1日の食事量、水分摂取量を把握している。入居者様の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している。水分をあまり摂られない入居者様には1日を通して確保できるよう根気強く対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアにおいて、自己にて磨けない方、残菌の少ない方は、口腔ケアスポンジ、舌ブラシ、歯磨きティッシュ等を使い分け行っている。	毎食後の口腔ケアを実施している。利用者の状態に応じて、見守りや声掛け、介助を行っている。夜間は、義歯の消毒を含めて事業所で管理し、翌朝、渡している。歯科衛生士から口腔ケア方法を学んだ職員が全職員に伝え、支援を継続している。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し一人一人の排泄習慣、リズムを掴み、オムツ使用を減らす努力をしている。立位が難しい方でも尿意がある場合、事故の無いよう職員二人対応でトイレ誘導、介助している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は曜日を固定しているがその方の体調や気分により入れ替えをしている。その方の希望に添えるよう支援をしている。またストレッチャー浴槽もあるので身体レベルに合わせて活用している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人一人の生活習慣や体調に応じ休息をとってもらっている。また清潔で気持ち良く安眠できるように入居者様に担当スタッフをつけ寝具干し、シーツの洗濯を確実にやっている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様全員の服薬している薬はスタッフ全員が何時でも把握、確認できるようにしている。また服薬管理表を作成し、セット時にも与薬直前にもスタッフが声出しダブルチェックを行っている。薬の内容が変更になった時は申し送りや口頭で情報共有している。	常に、声出し確認及び利用者が飲み込むまでを、複数職員にてチェックしている。薬は、朝・昼・夕に仕分けし、服用時間以外の薬は見えないように布で覆うなど、間違えないよう工夫している。利用者の体調に変化が見られた場合は、看護師が医師に連絡を入れ指示を仰いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人何ができるのかを職員が把握し役割分担し、参加してもらい労いの言葉を掛け次へと繋げる。またお誕生日会や年間イベント等にも力を入れ楽しんで頂けるようにしている。	利用者のできる事や好みを把握し、楽しみが継続できるよう支援している。月毎にレクリエーションや作品作りの担当職員を決め、利用者の楽しみに繋げている。細かな作業が苦手な人には、新聞を畳むだけの作業も用意し、労いと感謝の言葉をかけている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外への散歩に出かけている。自立している方が増えたので、施設のレクリエーションとして外出支援も再開している。また御家族様との外出、外泊が増えている。	日常的に散歩に出かけており、隣の幼稚園児を送迎する保護者とも挨拶を交している。また、近隣住民と犬の散歩時には、挨拶や触れ合う機会もあり楽しんでいる。ドライブを兼ねて花見に出かけている。家族との外出や外泊も増えている。	現在、家族の協力を得ながら、利用者の外出機会も増えているが、家族の支援が受けられない利用者もある。地域の公民館行事等に積極的に参加するなど、地域と交流しながら、全利用者が外出気分を味わえる工夫に期待したい。

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名ほどお財布をお預かりしているが、お財布の事はほとんど言われない。外出支援をした時に使えるように支援していく。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご要望で日曜日の休みの日等に御家族様に電話をし、御本人様と代わり話す機会を設けている。携帯電話で御家族様と連絡を取り合ったり手紙を出して近況報告をされる方もある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所に居間兼食堂がワンフロアになっている。フロアの一角に休むスペースが用意しており、見守り必要な方は日中フロアのベッドで休む方もいる。壁には入居者様の作品が貼ってあり季節感あふれるフロアになっている。	共用スペースには、季節の飾りや利用者の様々な手作り作品が飾られた温かみのあるフロアである。フロアや廊下などに椅子やソファを置き、好きな場所で寛げるよう工夫している。大きな窓からは明るい日差しが入り、隣の幼稚園児の元気な姿が見え、声が聞こえる環境である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置して外を眺めながら会話のできるスペースをつくっている。そこからひまわり幼稚園の園児が遊んでいる姿を見ることが出来て、入居者の楽しみの空間になっている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御自宅の生活環境を変えずに極力使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地良く過ごしていただけるようにしている。また動線を考慮し居室で安全に生活できる工夫をしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも出来る方には御本人様に分かりやすいように表示したり工夫をしている。認知機能が低下してきても、不安を取り除く為スタッフが付き添いその事で出来る事が多くなるので、その方のレベルにあった自立した生活が出来るよう工夫をしている。		